

えいらい

令和 6 年 12 月発行

発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院



No.61

〒790-0067

愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5

TEL / 089-943-1151

FAX / 089-947-0026

発行責任者／理事長 山本祐司

編集／松山市民病院広報委員会

今号のトピックス

- ◇巻頭言
- ◇臨床の現場から
- ◇永頼会設立60周年記念座談会
- ◇ナスバ病床～5年を振り返って～
- ◇第32回日本意識障害学会
参加報告
- ◇第74回日本病院学会参加報告
- ◇連携医療機関の紹介
- ◇お知らせ



松山中央乳児保育園の子ども神輿を囲んで (6 ページに関連記事)

近年の諸問題について — 副院長着任に際し思うこと —

副院長 小田原 一哉



この度、2024 年 5 月 1 日付で副院長を拝命いたしました救急科の小田原です。地域医療に従事しつつ、救急医療に携わっていましたが、2008 年から救急科専従となり、2016 年 7 月に当院に着任いたしました。臨床第一に医療に携わっていた者が大役を仰せつかることは夢にも思いませんでしたが、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

当院は松山圏域の二次救急輪番制の一病院として、8 日に一度の割合で二次救急を担当しています。当番日には午前 8 時 30 分から 24 時間体制で診療を行っており、かかりつけ医がある場合はそちらでの対応をお願いしますが、基本的には断らないスタンスで救急車の受け入れを行っています。救急医療は、急病時のためのものであり、便利な時間外の医療機関ではありません。安易に受診することは避

けていただきたく存じます。

近年の新型コロナウイルス感染症拡大以降に、歩行可能にも関わらず発熱という症状だけで救急要請されて救急病院へ搬送される方が多くなっています。そのような方は救急搬送されても、救急対応ではなく、通常の外来に回っていただくことになります。救急車の不適切利用はその体制を逼迫させています。救急医療や救急車は限りある資源です。是非とも正しいご利用をお願いいたします。

医療現場では、看護師の人手不足が問題となっています。当院も多分に漏れず、看護師の離職が多く、看護体制の維持も苦慮しています。厚生労働省の一般職業紹介状況を見ると、2022 年の看護師(保健師・助産師含む)の有効求人倍率は、年間を通して約 1.9 ～ 2.5 倍を推移しています。過去 10 年間の年度別の平均を見ても、ほぼ 2

倍を下回ることはありません。看護師が不足する理由の 1 つには、業務量の多さや責任の重さなどが考えられます。日本医療労働組合連合会が 2017 年度に看護師らを対象に行った労働実態調査の結果では、74.9% の看護師が仕事を辞めたいと答え、辞めたい理由として最多だったのが、人手不足による仕事のきつさで、47.7% の人が回答しているとのことでした。看護師不足は病院の機能を低下させる一因となりますので、看護師不足解消の対策として夜勤などの手当を充実させる、育児休暇や介護休暇を取得しやすくする、スキルアップをサポートするなどの方策を取っていきたいと考えています。

二次救急を担う病院としての責任を感じながら、業務を遂行していく所存ですので、よろしくお願いいたします。